



2025 年 10 月 24 日

各 位

会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役 山田 雄一郎
(コード番号：5026 東証グロース)
問合わせ先 執行役員 近藤 一寛
(TEL. 03-3526-2201)

2025 年 8 月期決算 に関する Q & A 公開に関するお知らせ

この質疑応答集は、2025 年 10 月 15 日(水)に行われた 2025 年 8 月期決算発表に関して、投資家の皆様よりいただいた主なご質問と回答をまとめたものです。ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行なっております。

なお、回答内容については現時点で当社が把握しうる限りの情報をもとにしております。

詳細につきましては、別紙をご参照ください。

各位

2025年10月24日



会社名 株式会社トリプルアイズ

代表者名 代表取締役 山田雄一郎

(コード番号：5026 東証グロース)

問い合わせ先 TEL. 03-3526-2201

2025 年 8 月期決算 補足資料（質疑応答集）

この質疑応答集は、2025 年 10 月 15 日(水)に行われた 2025 年 8 月期決算発表に関して、投資家の皆様よりいただいた主なご質問と回答をまとめたものです。ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行なっております。

Q 01

2025 年 8 月期末時点で、商品及び製品の残高が 1.4 億円ちかくあるようですが、これらは評価損のリスクはないのでしょうか？

A 01

製品残高の 9 割以上がゼロフィールドの在庫ではあるものの、これらは引き続き販売を継続する在庫であり、現時点では評価損のリスクにさらされているものではありません。

評価損とした在庫は、税制を活用した節税をメインターゲットとした GPU を用いた暗号資産マイニングマシンであり、現在販売継続中の在庫は、マイニングによる収益獲得をメインターゲットにおいた ASIC を用いた暗号資産マイニングマシンであります。ASIC を用いた暗号資産マイニングマシンの販売は、暗号資産相場の上昇を受け当社の想定通りに推移しています。

Q 02

決算説明資料から、人件費が上昇していること、また人材確保が難しくなっている状況を理解しましたが、採用及び教育に関する方針や施策についてご教示ください。

A 02

業界全般におけるエンジニア確保の競合状態は以前より変わりありませんが、当社においては、新卒採用により注力することで人材確保、売上拡大を図っていきたいと考えています。直近の 26 年卒の新卒採用はグループ全体で 37 名まで拡大しています。

教育については新卒導入研修だけでなく、既存社員の技術向上のための研修予算を増額して充実を図っている状況です。

Q 03

M&A 専門の新しい部署を設けたようですが、主な業務内容を教えてください。

A 03

ご質問のとおり、当社では 2025 年 9 月に「M&A 推進室」を新設いたしました。M&A 案件の開拓・実施とグループインした企業群を活かしたシナジー創出が主たる業務となります。これまで役員メンバーを中心に M&A の活動を行ってまいりましたが、人員リソースを確保し、仲介会社との関係性強化を図る

ことでソーシング件数の増加を目指すとともに、M&A 実施プロセスのパターン化を行う予定です。

当社グループは、M&A を成長戦略の重要な柱として位置付け、当社と同規模以上の企業の M&A 及び資本業務提携に注力してきました。これまで、2023 年 9 月には株式会社ゼロフィールド、2024 年 7 月には株式会社 BEX のグループインを実施し、2023 年 8 月期から 2025 年 8 月期にかけての 3 連結会計年度において、売上高が 2.4 倍となっており、グループ間の交流や事業シナジー創出に努めてまいりました。2025 年 7 月には、M&A の検討に際してのれん償却費を考慮の上検討するため、検討対象企業のスコープが狭くなる状況にあったため、2026 年 8 月期決算より国際財務報告基準（IFRS）の任意適用に移行することを決定しております。

今後は「M&A 推進室」の新設により、意思決定の機動性を高めていく所存です。成長に必要な技術・リソース（人、設備、情報）および新たなコアコンピタンスを獲得することを通じて当社グループを変革し、新たな事業領域の柱を創出します。

Q 04

株価の下落トレンドが続いておりますが、株主に対してコメントをいただけますか。

A 04

25 年 8 月期は M&A によりグループ売上は 57 億円まで大きく伸びたものの、想定が外れた部分もあり利益が伸び悩んだ期となりました。しかし、それと同時に 26 年 8 月期の成長に向けて着実に手を打って準備をしてきた時期でもあります。26 年 8 月期は黒字転換の予算を開示しており、足元は好調です。グループとしての成長及び安定した利益体質への転換を目指してまいりますので、引き続きご期待いただければと存じます。

Q 05

AI ソリューション事業のサブセグメントについて改めて教えてください。

A 05

AI ソリューション事業のサブセグメントについては、SI 部門や AI 関連のシステム開発事業を「AI インテグレーション」に、AI を用いた自社サービス事業を

「AI プロダクト」に、BEX 社の自動車設計事業を「エンジニアリング」に位置付けています。

また、ゼロフィールド社の事業は別途、「GPU サーバー事業」と位置付けております。

Q 06

決算資料からは、グループ各社別の売上の増減が把握できないので、内訳を示していただけますか。

A 06

同様のご質問が多かったため、各社別の売上の推移を以下に開示いたします。

	202308期 (実績)	202408期 (実績)	202508期 (実績)	202608期 (計画)
単位：百万円				
AIインテグレーション及びAIプロダクト (トリプルアイズ及びその他子会社2社)	2,346	2,702	2,905	3,224
エンジニアリング (BEX)	-	327 (2か月分のみ)	1,733	1,663
GPUサーバー (ゼロフィールド)	-	1,381	1,101	975
セグメント間取引△	-	-	25	25
連結売上高	2,346	4,410	5,714	5,837

Q 07

3Q に下方修正されて、その計画に対しては売り上げ、利益ともに上ぶれて着地しているように見えますが、どのように評価されていますか。

A 07

営業外収益として、相場の状況が良かったことから暗号資産の評価益が予想よりも多くなったこと、同じく営業外収益として保険の解約返礼金を約 19 百万円計上しました。さらに、各事業における経営努力の結果で営業利益ベースで 21 百万円ほど改善しております。

Q 08

今期（2026 年 8 月期）から、IFRS（国際財務報告基準）を適用するということですが、従来の会計基準からの移行にかかわる費用として、通常ですとコンサルフィーとして数千万円はかかると推測しますが、どの程度を計上していますか？

A 08

移行にかかわる費用はかなり低く抑えられたと思っています。当社は社内に IFRS 移行経験者が 2 人、会計士が 3 人いるので、外部コンサルなしで財務経理のメンバーの通常の人件費だけで移行が実現しました。監査報酬の増額分が幾分かあるものの、のれんが非償却となる金額 114 百万円と多額であるため、PL ベースでは大きく改善されると認識しております。

【参考資料】

- [2025 年 8 月期 決算説明資料](#)
- [通期業績予想と実績の差異、営業外収益（暗号資産評価益）及び繰延税金資産の計上に関するお知らせ](#)
- [「M&A 推進室」を新設 —M&A による非連続成長を加速](#)
- [国際財務報告基準（IFRS）の任意適用に関するお知らせ](#)
- [【ケーススタディ公開】ブラザー工業様が取り組む AI 活用の新しい学習プロセス](#)